

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第2回郷育推進会議
開催日時		令和6年7月25日（木） 18：30～20：00
開催場所		市役所本館2階 庁議室
委員名		（1）出席委員 伊藤副会長、木本会長、原尻委員、東委員、濱田真委員、山口委員、宇都宮委員、井上委員、濱田遼委員 （2）欠席委員 柳田委員
所管課職員職氏名		郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課郷育係長 坂本 剛章 郷育推進課スポーツ文化振興係 岩野 修人
会 議	議 題 （内 容）	○社会教育と地域活動の連携について～キッカケラボ紹介～
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	2人
	資料の名称	○キッカケラボご利用案内 ○福津市未来共創センターキッカケラボのススメ ○ふくつ地域デビュー講座 ○キッカフェ第4回 家庭の「廃食用油」を電気に大変身！ ○キッカフェ第5回 ホントの「地産地消」ってどんなこと？ ○【令和5年度】キッカケラボ 未来共創センター利用登録団体一覧
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局挨拶

1. 開会のことば

2. 部長あいさつ

3. 協議事項

●会長

前回の会議のときにも話したが、郷育推進会議という名称は福津市独自の
もので、一般的に社会教育委員を兼ねていて、去年も福岡ブロックの社会教
育の研修会を開催し、皆さんにすごくご協力いただいた。相変わらず社会教
育とは何かと、私自身もまだいろいろなところで思うし、周りでも耳にする
ので、今年は福津市の社会教育のあり方や郷育推進会議としての役割、福津
市の一つの方法を考えていく年にしたい。

その一つとして、郷育推進会議は郷育推進課の中でやっているが、地域コ
ミュニティ課という郷づくりなど地域づくりを中心されている部署にある、
キッカケラボの実情を勉強して、一緒にできることがあるかどうかの話を進
めていきたいと思っている。本日、キッカケラボのスタッフに来てもらう予
定だったが、スケジュールが合わなかった。このため、地域コミュニティ課
職員との事前の打ち合わせで得た情報と、私自身がキッカケラボの会合に出
たり普段利用していることから分かる範囲で実情をお伝えできればと思う。
紹介動画があるので、それを見ていただくと視覚的に分かりやすいと思う。
質問も分かる範囲で答えたいと思う。可能であれば、次回キッカケラボと一
緒に直接話をする場を設けて、社会教育や皆さんが携わっている活動に繋が
て行けるのではという思いもある。今年1年はそういう形で最後までやって
いきたいと思っている。

今日の進め方として、キッカケラボの話をする前に、まず先に社会教育委
員初任者研修の話をする。6月26日に事務局と3人で、研修会に参加した。
文教大学の青山教授のお話が、非常にわかりやすく面白かった。「スグキ
ク」というQRコードが資料に付いていて、登録をしたらその場で書き込んだ
意見が目の前のスクリーンに出てくるとい、会場一体型だったのが良かった。
配布した資料は社会教育について非常に分かりやすくまとめているので、
読みながら一緒に理解していただければと思う。

○令和6年度福岡県市町村社会教育委員新任者研修会

「これからの時代に求められる社会養育委員の役割」について説明

●会長

9月に南筑後の教育事務所から要請があり、福津市の郷育推進会議や生涯
学習のカリキュラムである郷育カレッジのことなどをお話してほしいという
依頼が入っている。八女市、筑後市、広川町が視察に来られる。去年福津市
で開催した福岡ブロックの研修会が大変評判が良く、全体のまとめり感や伊
藤先生の話、パネルディスカッションを会場一体型でやったことや運営のこ
とも良く言われた。すごく皆さんがまとまっていたので、福津市に視察に行

きたい、教えていただきたいと言われることが増えている。でも何をどう教えるかというときに、福津市の郷育推進会議として社会教育をどうやっているのか、今ひとつ曖昧で明確に説明できるものがない。それぞれの活動団体についてはきちんと説明できるが、社会教育委員はそれぞれの活動にどう出ていっているかと言われると、出ていくという発想よりも、どちらかというところそれぞれの活動団体からこの会に来ていただいているので、そもそもそれぞれの活動団体に出ている形になっている。例えば、コーディネーターの立場もあればアンビシャスの立場もあり、郷づくりの立場もあって、そのような人たちがここにいることで、情報をそれぞれの活動団体に持って帰っている。

どうやってそれぞれの活動に出ていっているかと聞かれるということから、他の市町がいろいろと悩んでいることが分かる。福津市はそもそも各団体の人がここに集まっているので、社会教育委員にあたる人は、それぞれの活動団体に参加しているということはお伝えをする。そこにプラス教育という視点の社会教育というところと、企業やNPO法人という別の視点を持つ団体との活動となると、今度は教育委員会の中の教育行政とまた違うものが社会教育の中にどうしても出てくる。そこで、キッカケラボが外向けのステージで活動されていることから、キッカケラボの活動内容を確認することで情報を収集する場所が増えるのではないかとということで、次回はぜひ一緒に会議をしたいという話をキッカケラボにしている。

キッカケラボのほうも、教育というものが分かりにくいので、伊藤先生のコミュニティ・スクールの話などをもっと聞きたいという意見が出た。学校にどう関わるといいのかまだ手探り状態らしい。郷育推進会議は教育委員会の中にあり、コミュニティ・スクールもこれだけ進んでいるので、地域と学校等の情報はだいぶ見えるようになってきている。キッカケラボにどういう形で関わったらいいのかを動画を見てから話を続けていきたい。

○キッカケラボ紹介動画視聴

●会長

テレビ向けではあるが何となく様子は分かったと思う。キッカケラボの活動を見ていると、すごく良いことをしている印象はとても強いと思う。実際、良いことをされているが、キッカケラボが始まってまだ3年で、活動を始めたいという思いを持って始めることはできても、継続させることがとても大変で、長く継続している社会教育団体や地域活動団体の力を借りたいとか、ノウハウを聞きたいということも最近は耳にすることが多い。

キッカケラボの繋げ方の仕組みがあれば、私達社会教育団体も、コミュニティ・スクールがそうであるようにどう繋がったらいいか糸口を見つけるのが最初は大変なので、やはりいい形で情報の共有と協働ができれば、お互い助け合える部分が出てくるのではないかと、地域コミュニティ課の職員やキッカケラボのスタッフと話して、共通認識がある。

キッカケラボでは福津地域レベルの講座があり、今から先ものすごいきっかけになるのではないかと話が出ている。リタイアされたかたで何をしたいのか分からないとか、市外や県外の方で仕事をしていたので、地元には繋がりが無いとかたが来られて何をどうしたらいいのか話を聞くときに、シルバー人材センターが来て、働くならこういう働き方があるという紹

介があったりしている。例えば地域婦人会もここに参加して、地域婦人会の活動を紹介する。もしくは子ども会でも、保護者の年齢以外のかたにスタッフになっていただく方策として、子どもたちのために活動したいがどこに行っているのか糸口がわからないかたにこの地域デビュー講座に参加していただき、私達の社会教育のそれぞれの地域の活動団体が情報を提供する。ここに出向いて話をする機会があってもいい。それぞれの地域活動団体が、新しい会員に声をかける。それも一つのきっかけである。なかなか「こういうのがあって行こう」という発想というのが、「ある」という情報を聞かなければならない。だから私達のことをもっと知ってもらうことで、逆にこのデビュー講座のときに、来てもらえますかとキッカケラボから言ってもらって、活動の内容などを紹介したり、実際どういう年齢の人が活動していますという話をしたりすることも可能だと思う。

学校のコミュニティ・スクールにおいては、昨年のことだが、福間東中学校でその当時の生徒会長だった3年生の古賀さんが、学校でボランティアについての勉強をやりたいとキッカケラボに直接相談に来て、キッカケラボのボランティア講座を学校に持ってきて、生徒たちの学びの機会の一つになったということがある。

福間南小学校の高木先生と話したときには、キッカケラボのことをご存知なかった。地域のかたにたくさん来ていただきたい機会があるけど、郷づくりに声をかけるか保護者の方にお問い合わせするのが中心だったが、キッカケラボにもお声掛けして、こういう取り組みをするので、もしよかったら参加してもらえないかということをお願いするのですねと話をされていた。

全部がうまくいくケースばかりではないと思うが、キッカケラボの仕組みが今の段階では定着して動き始めている。これから先またいろいろな紆余曲折があるかもしれないが、福津市独自の社会教育の仕組みという意味では、いろいろなところのいろいろなものを繋ぐことをキーワードにして情報共有するというのが、郷育推進会議の一つの仕事であると掲げてもいいのではないかという思いはある。

最後に、キッカケラボの登録団体の一覧表に、地域婦人会も市子ども会育成会連合会も載っていて、いろいろなNPO法人、企業としてはイオンもここに関わっているの、情報共有をすることで糸口が見えるのではないかという意味で今日は簡単に紹介した。質問や感想があれば願います。

●委員

デビュー講座に参加予定ではあったが、参加できずに資料だけいただく形になった。しかし、いろいろと相談してみると、身近に同じような活動をしている団体や思いを持った人がいるということだった。こうした講座などに行くともたいろいろ情報が得られるので、またこういったところは活用していこうと思っている。

●委員

私達もボランティアセンターの頃から登録していて、キッカケラボになったときに津屋崎の方から地域婦人会に興味があるがどんなことをされているのかと会長に連絡があり、がんの講座をしたときに参加してもらった。地域婦人会はみんな支部に入って活動しているが、津屋崎には支部がないので何かあったときにまたご連絡するという事で連絡を取っている。このよう

に、キッカケラボで情報を見ているかたがいる。

●委員

中学校の三者面談でたまたまこの話をした。進路の話の時、部活に入っていないからボランティアをメインに行くということになったが、推薦のありかたも変わっている。去年古賀さんがキッカケラボに行ったときの話や、ボランティア講座の話も聞いていたので「キッカケラボを知っている人がいるから、団体としては登録していないが、希望進路に行きたいなら自分の窓口を広げるためにキッカケラボに行ったらいい」と担任の先生に言った。中学校1年生で行ける範囲も限られているから、神興の地域から広げて、だんだん広げていく。1年生の終わりで、最終目的が福津市のコミュニティ・フェスタへの参加。福間中や津屋崎中の人も来るから、そこで交流を持てきなさいという話をした。そこから次はキッカケラボに行こうという話を今日したばかり。キッカケラボで何ができるか私もまだ理解はできていないが、多分子どもと一緒にいろいろなことを聞いたら、もっと分かりやすく、子どもと一緒に勉強できると思う。

●会長

これだけのものがあるのを利用しない手はない。いわゆる行政の縦割りのように、教育委員会の中だけでなく、いろいろ視野を広げて郷育推進会議を充実させることができるかという思いはある。そのためには相手を知らないと何もできないので、今年はそういう年にしたい。

●委員

いろいろな社会教育の話も含めて、学校に対するイメージが当たり前に固まっているというか、皆さん経験があるから、「学校はこんなものだ」というのがあるのが今の学校教育を前に進められない大きな原因。子どもたちの教育活動のために地域に協力をお願いしたいとか、地域のほうに来て一緒に学ぶ場であるはずが、子どもが聞く側になっている。それはもうやめなくてはいけない時代になっている。子どものほうが逆に大人の参考になることを言うので、子どもたちはそういう場が必要だと少し考えている。

入試の話もさっき出たが、今までは学んだことをいかに知っているか答えれば、良い学校に行ける時代が長く続いてきたが、そういう時代ではなくなっている。知っていること、知識はスマートフォンで調べれば分かるし、せっかく中学校まで学んだことも社会に出たときには古い情報になることを考えると、それをどう使うとか、どう発想するかを子どものうちに経験させないといけない。それも高校生とか中学生ではなくて、小学校のほうが役に立つ発想力は強いと思う。勝浦小学校は1年生で17人しかいないが、発想する力はものすごく、大人も驚くことがある。ただ先生が指示をしても、1年生はなかなか「はい」と言わないが、その中身の方が面白かったりするのを考えると、キッカケラボを学校を変えるきっかけにしないといけないと思う。具体的にどうしたらいいかは分からないが、一つ分かっているのは、学校に勤めている教職員の頭の中をもう少し柔らかくしないといけないということを、僕も含めていろいろと考えさせられる。

●会長

コミュニティ・スクールで関わり出したとき最初に思ったのが、子どもたちのためにと言われて協力したが、先生のほうに教育してやりたいと思う気持ちが最初の頃すごくあった。なので、一緒に先生も学ぶ機会があり、意識が変わる機会があるといいと思う。

●委員

私もアンビシャス広場や福間郷づくりからキッカケラボに登録している。キッカケラボがオープンしたときに、自治会長の集まりに説明に来ていただいたが、やはり腑に落ちてないようだった。先日、ある自治会長が文化祭を変えたくて、ステージ部門というか、音楽の団体などに来てもらいたいと言って郷づくりの事務所に来たが、そのときにまずキッカケラボに行けば情報を得られるかもしれないとお伝えした。その足でキッカケラボに行かれて、良い情報が分かったと言われた。やはり自分事になることが大事。

キッカケラボに期待していることについて。地域コーディネーターで関わっている福間中の3年生の未来会議で、福津の課題解決を班ごとにアイデアを出し発表してくれる。しかし、3年生の9月にプレゼンテーションをするが、それが終わると受験で卒業した後も忘れてしまう。だが、その中で一つでも二つでも実現できることがあるといいと思う。去年も学校で宿泊体験をするというアイデアがあり、実現すればとても楽しそうなものがあった。全部の発表をキッカケラボの施設の中で掲示させてもらい、全部保存しておいて、子どもたちが大学生とか社会人になったときに、昔考えたことが今ならできるという時に、そこに行って一緒にやってくれる人や企業を巻き込んで、そんなにお金をつぎ込まなくてもできるようなことが将来実現できたらいいと思う。

●委員

郷育推進会議は郷育推進課で、キッカケラボは地域コミュニティ課で、他にも学校や郷づくりで担当課が分かれているが、話を聞いていると共通点是一緒だが、そこまで細分化される必要があるのか。似たり寄ったりな共通項があるからそこを一つにまとめられないかと感じた。その辺を分かりやすくしないと、そこに興味がある人はみんな行って自分で何でもするけれど、他の人にもっと広められてもいいのではないか。まだこれから先、外部から入ってくる人もいると思うので、そういう人たちに向けてやれるようにしてはどうか。

●会長

言われる通りで、同じことを言っていることが結構行政の中にある。同じようにやりたいと言っていることを職員同士のほうが知らない。昔、市主催のみかん狩りが年2回ぐらいあり、友達が申し込みして行ったら名前がないと言われた。別のみかん狩りのほうに申し込みをされていて、日程を勘違いしていた。なぜ別々なのかというと、主催の課が別で、お互いがみかん狩りをやると知らなかったという話を後で聞いて、市民にしてみると馬鹿にされた気分になる言う話があった。

もう少し市民側として分かりやすくしてもらえれば、情報がくれば意見も出せるが、情報が入ってこなければ知らなくて、さっきみたいなトラブルに

なったりもする。ある程度横の繋がりも意識してできるようになっているかもしれないがまだまだと感じる。

●委員

コミュニティ・スクールと言うと、福津市は郷づくりがあるがコミュニティ・スクールの行事などの情報がなかなか郷づくりに来なかったりする。

「自治会長の皆さんに来てもらってこの話を聞いてもらったらいいのにな」と思うような話もあるが、なかなか担当課が違うので、コミュニティ・スクールに思い入れのある先生が担当しているときは郷づくりに来て、チラシを置いて説明したりしてくれるが、人が変わるとなかったりする。

●会長

誰が来てもちょうんとそれが共有できるように、人ではなく仕組みとしてちゃんと繋がっていないといけない。

●委員

昔の教育は賞味期限が長かったけど、今の教育は短いということで、多分すごいスピードで今変わっている。携帯も、私が中学生のときとは様変わりして、今はもうこんな薄い液晶だけになっている。テクノロジーもすごく変わってきていると思うが、でも元々根本は読み書きそろばん。そこをきちっとやって、その上でプラスアルファの教育が今すごく必要だと思う。

小学校2年生の子どもがこの間、英会話を習いたいと言い出した。周りに外国籍の子がいるし、友達が英会話を習いだしたから習いたいと。しかし、最初に子どもたちが身につけるべきは自分たちの半径2キロ以内のことだと思う。読み書きは共通の言語があるから、ひらがなと漢字が読めて書ける。読めるというのは文章の意味が理解できる。そろばんは生きていくために計算ができないといけないという話をして、英語は挨拶ができれば十分でそれを知っていたら生きていけるし、1週間でも外国に行ったら聞き取りができるから、今やらなくて大丈夫と話をした。元々何で勉強しないといけないのかを、今の子どもたちが分かっていない。外国の言葉が喋れることに憧れる時期かもしれないが、でもその前に自分の国がどうなのかとか、自分の国の言葉がどういうふうにできたのかとかを知っておかないと駄目なのではないかと、青山先生の今の教育と昔の教育の違いというのを聞いてすごく思った。

キッカケラボはそもそも知らない人とか理解してない人でもとおっしゃったけれど、どういう活動をしているのか理解されていないかたが多分多いのですごくもったいない。自分もこういう会議に出ていなかったら多分知らなかったと思うし、お話しするきっかけもなかった。発信はされているが、たぶん目に入っていない人のほうが多いと思い、すごくもったいないと思う。

未来会議で、学校でお泊まりがしたいという子がいた。夏休みに肝試し付きでやったら面白い。

●副会長

いろんなかたの話を聞いて、大事なポイントがいくつもあった。今の教育と昔の教育が違ってきているが、その理由は簡単。教育は何のためにするかというと、いずれ社会に出て生きていくため。社会が変われば教育は変えざ

るを得ない。私が小中学生だった頃は、物知り博士という言葉は普通で、いっぱい知っていることに価値があったが、今はスマートフォンさえあれば Siriの方が物知り。

学力観も変わってきている。平成29年に改訂された学習指導要領も「子どもが何をできるようになったか」と、主語が先生から子どもに変わっている。先生は教えたくなくて正解にたどり着かせたくなるが、その学力観を変えようというのが今の学習指導要領で色濃く出ている。特徴的なのが、ペーパーテストだけが学力ではないという考え方が色濃く入っている。

「学びに向かう力、人間性等」も子どもが身につけるべき資質能力であり、学力の要素として入っている。社会が変わったから教育も変わってくるので、社会教育も変わらないといけない。学校教育と社会教育は昔線を引いていた。学校教育以外が社会教育という線が見えなくなってきたのが実態。昔は学校でやるべき教育と、地域の子は地域で育てる地域の社会教育基盤が明確に線引きされていた。今は地域の教育力も昔とは違ってきて、学校教育も学校だけで閉じて豊かに育たないから社会に開かないといけない。その切り札がコミュニティ・スクール。福津市の特色としては、学校教育と社会教育を融合させる仕組みのコミュニティ・スクールが整ってきているので、福津市は学校教育と社会教育の壁がものすごく低いというか、究極的にはもうなくすぐらいの勢いで考えることだと思う。

福津市の社会教育で特徴的な郷育カレッジ。そこで育った人が、今度は学校教育で子どもを育てているので、学校教育や社会教育を人が行ったり来たりしている。垣根がすごく低いのが福津市の特徴。他の市町でコミュニティ・スクールや社会教育の話をすると、質疑応答で必ず出るのが、どうやって人材を見つけ発掘したらいいのかということ。発掘という視点では今ある活動をいろいろ繋ぐという発想もあるが、福津市郷育カレッジを通して、むしろ人を育てて、育った人が今度は学校教育を活性化する。だから、学校教育と社会教育が繋がることで双方を活性化するのは、福津市の特徴であり特色と思っている。

社会教育は大人ばかりでやるイメージがあるが、学校教育と社会教育の壁をなくすと、子どもも入ってくる。子どもは大人が持っている下手な既成概念とか価値観とか、仲間意識とかそういった壁を知らないなので、純粋にいろいろな「こうしたらどうか」ということを考えることができる。そういうものが動きやすい仕組みとして、キッカケラボを持っているのはとてもいい。キッカケラボができる前は、郷育推進会議でどんな団体がありどう繋ぐか、キッカケラボ的な発想していたわけで、それをやってくれるところが出来上がってくると、私達の立場は繋ぐことをアシストしながら全体を見ることになる。

社会教育委員で大事なものは、行政とのパイプを持っていること。他にない特色で、私達がいろんな計画を立案したり、諮問に対して答申という形で、今動いている社会教育を眺めたら、よりよい動きをするためにはこんな仕組みがないと駄目だと行政に申し上げたりできる。これはキッカケラボにはできず、私達しかできない。すみ分けとまでは言わないが、郷育推進会議だけの強みと思っている。そこを考えながら、繋ぐことを一緒にやっていきつつ、学校教育と社会教育を融合させる。「壁を取る」よりも「融合させる」という考え方のほうが未来志向でいいかもしれない。そういう形で子どもを中心に進んでいく方向性が高い。学習指導要領も10年ごとに変わっていくの

で、令和9年ぐらいにOECDが言っている「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」この要素が多分色濃く入ってくると思うが、まさにこういう活動を通して子どもたちはそういった力豊かに育つのではないかと思う。

●会長

キッカケラボの話をしたが、郷育推進会議の立場は自覚をしておかなくてはいいけないが、さっき動画に出てきたキッカケラボの中にコネクターという役割の方がいて、登録団体へのヒアリングにとっても丁寧に全部行っている。これだけの数をヒアリングに行くだけでもかなりの労力だと思うが、ヒアリングをして求めるものが合致したらコネクトし、繋げた後も伴走支援もある程度してくれる。そこら辺の意識もすごく仕組みとしてできている。

ただ一つ思うのが、長いこといろいろこういう討議をしながら、私達もその意識の中でコネクターになっているところがあると思う。文化協会と子ども会が、情報共有してそこで繋がったり。一つ強みというか面白いのが、社会教育団体からだけではなく、公募で入ってきてもらっていること。組織ではないといけなわけではなく、市民目線の意見を聞けるというコネクトする大事な相手になるので、そういう意味で公募から入ってもらい意見をいただけるのはありがたい。

福間中学校未来会議の話をしていたが、去年の福間中学校の子どもたちの未来会議の中で、環境のセクションで福津市の自然環境の話をうみがめ課の人たちなどから話を聞いて、自分達で研究して発表したテーマが外来種と在来種。在来種がだんだん外来種に駆逐されているので、うみがめ課がある程度駆除している。子どもが環境フォーラムに参加した際に、「花の外来種を環境フォーラムの直前に駆除して、綺麗な花でリース作りをして、参加者に持って帰ってもらったらどうか」という提案をした。うみがめ課の人が、今年はもう間に合わないが来年やりたいと話をされていたが、担当者の部署が変わっていて実現できなかった。

ただコネクトするわけではないが、繋ぐことはなにかの場でないとできないというわけではない。こういう話を聞いたとか、あそこでこんなことをされているところがあるとか、キッカケラボはそういう話をまとめていただく種類が多い場所ではあると思う。ただし、ここにいる方もみんなコネクターだと私は思っていて、会議等の中でいろんな情報を出してもらって、今度それをやってみましょうとか、福津市独自の社会教育委員のあり方として、コネクターの役割をしているというようになるところになるのもいいと思っている。

迷うというか悩むというよりも、もうはっきりと情報共有と繋ぐ役割というところは本当にある。もちろん諮問答申とかそんなのが来れば、きちんと皆さんで意見を出し合って、やりたいと思う。次回はできればキッカケラボのかたに来てもらい、ワークショップ的なものをやってみても面白いと思っているのでやり方はまた連絡する。

○その他

- ・福岡ブロック社会教育委員研修会

10月18日（金）13時～古賀のリバーズプラザこがで開催。

テーマ「社会教育は地域社会に何ができるか」

～地域コミュニティへの多様なかかわり方について」

最初に基調講演があり、後半にパネルディスカッション。

- ・ 県の社会教育の研修

10月31日（木）そぴあ新宮

今日は議事内容としてはこれで終了する。

○次回開催日について

9月30日（月）18時30分